

2021年度 第44回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2022/3/30】

この試合のプレー集計

B3位

群馬ジュニア水球

14

3	—	3
0	—	3
3	—	1
3	—	2
5	PSO	3

12 石川イーグルス

審判： 人長 尊
橋本 寛一

群馬ジュニア水球	24	SH数	15	石川イーグルス
	2	速攻数	6	
	12	ST・SB	8	
	6	SH・P誘発アシスト	6	
	25%	GK阻止率	53%	
4	EX反則数	6		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
群馬ジュニア水球	83	47	34	23	40	41	8	15	30	41.2%

(5試合合計)

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
石川イーグルス	77	37	23	22	36	34	13	16	23	41.0%

(4試合合計)

【試合の流れ】

随所に試合巧者らしい展開を見せる中学2年生チームの群馬と、往年の「泳ぐ石川」スタイルが復活しつつあるイーグルスの対戦となったB区分3位決定戦は接戦が予想される。

1P

石川がペナルティを⑤名倉が決めて先制したが、退水を群馬が決めるという拮抗した試合展開となった。両チームともにセンター中心のオーソドックスな水球で試合が進む様相となった。センターの力としては群馬が勝っている状況であったが、群馬側にはミスも目立ち、そこを石川が確実に点に結び付けるという展開となった。

2P

このピリオドでは石川がテンポをあげて、速攻を次々に繰り出して連続得点。逆に群馬は石川のディフェンスに合わせてしまう形で遠目のシュートを打たされ、そこを攻められた形。特に右45°の⑤斎藤の動きが硬く、攻撃のリズムがなかなか上がらない中で、群馬ジュニア3-6石川イーグルスの3点差で前半を折り返した。

3P

群馬ジュニア劣勢で迎えた第3ピリオド、⑤斎藤のミドルシュートがきれいに決まると、群馬の攻撃リズムが急激に向上し、積極的に前に泳ぐようになった。石川にセンターシュートで追加点を奪われるが、リズムでは群馬が優勢に立ち、⑧前田のセンターシュートで1点差(群馬6-7石川)。最終ピリオドでは激しい攻防が予想された。

4P

群馬はセンターで②高山が退水を誘発し、そこを⑧前田が決めて7-7の同点に追いついた。石川も⑦松野が速攻で、⑤名倉がドライブSH攻撃を決めて2点のリードを奪うが、群馬が懸命に粘り、残り時間1分を切ったからのディフェンス時の強い圧力からの怒涛の攻撃で2連続得点して同点に(群馬9-9石川)。

PSO戦は5人全員が決めた群馬が勝利し、3位となった。